

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 11月 26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3472501513		
法人名	社会福祉法人成寿会		
事業所名	グループホーム田口		
所在地	広島県東広島市西条町田口東子2729-1 (電話) 082-425-5757		
自己評価作成日	H22.11.8	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3472501513&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の施設だからこそできるサービスの充実化に力を入れている。入居者と職員の関わる時間を多く作ることによって入居者の不安、ストレスを解消したり、季節にあわせて色々な行事(主に外出の機会を多くする)を催したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは、3階建ての建物で1階がディサービス、2~3階がグループホームになっており、移動はエレベーターで行う。豊かな自然に恵まれ、建物全体が採光に恵まれゆったりとした構造になっており、居室は全室個室で明るく豊かな落ち着いた雰囲気である。職員は家庭的な環境の下で介護を行っており、これまでの生活を大切にその人らしさを持ち続けられるよう、様々な季節の行事を取り入れて豊かな楽しみのある生活ができるよう支援している。

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム田口の理念がある。	新入社員もきちんと理念を理解している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方とは、あいさつを交わすくらいであるが、近くに美容院があり、月一回訪問して下さる。	地域の夏祭りや盆踊り、敬老会などに参加している。日曜学校の生徒に演奏会を開催して貰ったこともある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実施できていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の中での意見や要望に関しては、その後のサービス向上に向けて活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議には管理者、家族、民生委員、市、職員の代表等が出席する。会議では施設から、利用者の現状やサービスの状況報告をする。民生委員の方から地域の福祉まつりの案内を貰ったり、運営について助言を頂くこともある。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主に運営推進会議を通して状況報告等行っている。	運営推進会議に市の担当者に出席して貰い、ホームの状況を報告し助言を貰っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しての外部・内部研修があれば、参加するように努めている。身体拘束をしないケアを常に念頭に置き、必要時にはカンファレンス等で話し合い、拘束をしない方向での対応を検討している。玄関の施錠に関しては、なかなか実践までは届いていない。	ホームが2階、3階にあるため安全上玄関は施錠しているが和風の格子戸で開放感の雰囲気作りがされている。身体拘束の研修をし、拘束をしないよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関しての外部・内部研修があれば、参加するよう努めている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	必要時には、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には、理解・納得をして頂けるよう説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者に関しては職員が話を聞く時間を作るように努めており、家族に関しても面会に来られた際等に状況報告を細めに行い、意見・要望等を話せる場を設けている。	利用者や家族の意見を十分聞き、希望を取り入れ介護計画に生かしている。日常生活については家族の面会時や電話で報告し意見や要望を聞いている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見等発言できる場を設けており、反映させている。	開設以来施設長の運営に協力してきた職員を中心とした協力体制があり、ミーティングなど積極的に職員の意見を取り上げ業務の改善に役立っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場に訪問する機会を作っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々に見合う研修(内部・外部)を受ける機会を多く作っており、発表の場も設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流の機会はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>環境に慣れていただくため、関わる時間を多く作っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>話しをする場を作り、家族の思いを傾聴するようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の状況をしっかり把握し、今必要なサービスがなにかを見極めることができるよう、努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>可能な限り出来る能力を維持していけるよう役割を持っていただき、共に生活していく者同士の関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員と家族が共に本人を支えていけるよう、お互いにできることがなにかを考え、実践している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族にも協力していただき、可能な限り支援している。</p>	<p>なじみの身の回り品等を持ち込んで頂き、家族が訪問しやすい環境作りに努力している。2階に大きな仏壇が設置されたのを機会に集まって読経される方が増え交流の機会になっている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者それぞれの性格を理解、把握することで利用者同士のトラブルを防ぎ、又、孤立しないよう職員が配慮している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>利用者が退居したあとも、必要に応じて本人や家族との関わりを続け、相談や支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	話す時間を作ることで、利用者の意向を聞きだすよう努めている。困難な場合でも、本人の行動や発言等から思いを汲み取るよう努めている。	契約時は勿論であるが、入居後も本人や家族と情報交換に努め、希望や意向に沿った介護をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や今まで関わりのあった方等から話を聞く等して、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活パターンを把握し、できる事、出来ない事を見極めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の現状を本人に関わりのある者が把握(情報の共有)したうえで、介護計画を作成している。	計画は常にモニタリングし、ケアマネのほか看護師、職員も加わり、本人・家族と話し合い現状に即した介護計画を作るようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活の記録、特に普段とは違う行動や発言等に関しては細かく記入し、それを元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況に応じて、柔軟な支援ができるよう、他事業所と協力して行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人ひとりが安全でより良い暮らしを続けていけるよう、必要時には地域と協力して支援していけるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を第一に考慮し、かかりつけ医の受診を行っている。	入居時に家族と相談の上殆どの方がホームの協力医をかかりつけ医とし、1か月に2回の往診を受けている。その他の利用者も本人、家族の希望を第一にかかりつけ医への受診を支援している。ホームの近所に病院があり対応して貰うこともある。歯科はホームの近隣の歯科医がかかりつけ医で職員同行で受診している。	

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の中で気づいたことは、すぐに報告し、指示を受けるよう職員それぞれが配慮している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況等は、連絡をしたり、病院に訪問したりして把握できるよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今後の方針等を早い段階から話し合い、関係者が協力して支援できるよう努めている。	本人、家族等と重度化や終末期について、早い段階で話し合い方針を定めている。医療が関わる場合困難な場合もあるが、出来るだけ本人、家族の希望を尊重するようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	外部研修に参加している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を定期的に行っているが、地域との協力体制は築けていない。	避難訓練は定期的に行っているが、地域への参加は呼びかけていない。	運営推進会議等で議題にされ、避難訓練の日を地域に周知して参加を呼び掛けたり、夜間を想定した訓練が行われることも期待されます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけに関しては職員一人ひとりが日頃から注意し、人格を尊重した声かけが出来るよう努めている。	個人記録簿は職員詰所のロッカーに施錠されて保管されている。入居者が意見を言いやすいようにおだやかな言い方に努めている。又トイレ誘導にも寄り添うという行動で声かけを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が意思決定するのではなく利用者それぞれが自己決定できるような声かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の生活のペースを大事にし、利用者本意の生活が出来るよう支援している。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望があれば、家族の方にも協力していただき、支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な方は、調理や後片付けを職員と一緒にやっている。	お一人ひとりの体調を見ながら、食事の形態も検討している。食事が単調にならないよう、行事食などを取り入れている。配膳や後かたづけを自分の役割としてされる利用者もある	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分のチェック表にて管理している。一人ひとりのその日の体調を見ながら、必要に応じては、食事形態も変えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアは行なっており、不十分な方に関しては、職員が介助している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限り、トイレでの排泄を行えるよう支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせた対応を行っている。	リハビリパンツなどを活用し、排泄パターンを把握してトイレ誘導をこまめに行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者の便の状態を把握し、一人ひとりにあった対応を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、利用者の要望にそえるよう努めている。	ホームの家庭風呂に入れられない方は、1階のデイの特浴を利用される方もあり、出来るだけ、希望の時間に入浴出来るよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣やその日の体調にあわせて、いつでも休息・安静ができるよう配慮している。自分から訴えることが出来ない方に関しては職員が声かけをする等支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師に確認したり、処方箋を見る等して、効能や副作用については把握するよう努めている。薬が変更になったり、増量したりすることもあり、経過を細かく記録し、その都度医師に報告している。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割,楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように,一人ひとりの生活歴や力を活かした役割,嗜好品,楽しみごと,気分転換等の支援をしている。	趣味や好きなこと,習慣等継続して実施できるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって,戸外に出かけられるよう支援に努めている。また,普段は行けないような場所でも,本人の希望を把握し,家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の気候等にもよるが,希望にそえるよう努めている。普段行けない場所にも外出できるよう行事等で実施している。	お一人ひとりの体調や天候などをみながら,買い物,散歩やドライブなど外出の機会を作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は,本人がお金を持つことの大切さを理解しており,一人ひとりの希望や力に応じて,お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があれば,ある程度のお金は所持したり,使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり,手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば,支援している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関,廊下,居間,台所,食堂,浴室,トイレ等)が,利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音,光,色,広さ,温度など)がないように配慮し,生活感や季節感を採り入れて,居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日頃から環境整備には配慮し,音,光,温度等細めに確認している。	室内は明るく,音,温度等こまめに調整されている。建物中央に広い廊下があり,散歩を兼ねてゆっくりと行き来される利用者もあった。南東に面した居間は日当たりも良好でソファが置かれ利用者が三々五々寛げる場所となっている。食堂ではテーブルがゆったりと配置され,キッチン是对面になっており配膳を手伝う方もある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で,独りになれたり,気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室は全て個室であり,一人になる空間がある。リビングにて利用者同士くつろげるよう,音楽を流したりと工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は,本人や家族と相談しながら,使い慣れたものや好みのものを活かして,本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は全て個室のため,居室内は利用者本人が居心地よく過ごせるよう本人と家族が相談して家具等セッティングして頂いている。	居室は全て個室で利用者のなじみの物が持ち込まれている。家族と本人の要望にそって,職員も協力して居心地良い空間づくりをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして,安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子とすれ違っても危険が少ないよう,廊下のスペースが広く,歩行に不安のある方でも職員の手を借りず歩行できるよう至る所に手すりが付いている。		

グループホーム田口

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム田口

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム田口

作成日 平成 22年 11月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常的な地域との交流がほとんどない。	地域との交流を深める。	推進会議等で、交流の手段としてどういったものがあるのか聞き、協力して頂けるよう相談する。	未定
2	35	災害時の地域との協力体制が築けていない。	協力体制を築く	まずは、地域との関わりを深めていくことを優先に行い、徐々に避難訓練等に参加していただけるよう協力を要請する。	未定
3	6	玄関の施錠に関しては改善できていない。	施錠時間の短縮	家族に身体拘束に関する説明を行い、理解を深めて頂き、少しずつ玄関の施錠時間の短縮を図っていく。	未定
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。